

静岡理工科大学 広報誌



# キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2006

1

VOL.29



## 特集

初の中国語海外研修を杭州で実施

サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)について

理科大好き人間を育てよう

多くの異文化を体験。

9月4日から17日まで中国杭州市の浙江工業大学で中国語研修を行いました。参加した学生は言葉を学ぶこと以外にも多くの異文化を体験し、大きく成長しました。

## “脳力”を鍛える



学長 塩田 進

脳の働きを研究する最近の脳科学分野の発展は目を見張るものがあります。脳の外から脳内の活動を見る技術や直接脳にアプローチする技術の発展により医療分野に応用される例も出てきました。

人間の脳は驚異的な能力を持ち、1千億程度の神経単位細胞で構成され、各細胞は何千という細い繊維で他の細胞とつながり、したがって脳内の潜在的なつながりの数は何兆という数になります。このつながりが脳の活力の源泉で、脳を使えば使うほどこのつながりが増えていくということです。頭は使えば使うほど活性化されていくといううれしい話です。

左脳は主に言語的、論理的、分析的の思考に関わり、右脳は視覚的、音楽的な統合的能力に関係しているということは皆さんご承知でしょう。小学校から大学に至る学校教育では左脳の言語的、論理的能力の訓練に多くエネルギーを注いでいます。芸術・体育系の入試以外は主に左脳のテストに主眼を置いている結果、人間の本来持つ広い能力を伸ばしきれているか心配です。

実際、米国のある教育心理学者は、脳を鍛える、すなわち学習効果を加速するのに、言語や論理の能力だけでなく視覚的能力（図を描くなど、方向感覚や戦略を立てる能力に関連）、音楽的能力（音楽に関連したリズム感など）、身体的能力（手足など身体を動かす能力）、内省的能力（己を知る）、社交的能力（他人を理解する）、博学的能力（知識を蓄える）を使うことを提案しています。そして、それらの中で得意な能力を使うことを薦めています。

こうした“脳力”は人間がその長い歴史の中で獲得したもので、生きていくのに必要であったことから発達してきたと思われます。企業経営者にどんな人材を希望しますかと問うと、基礎学力に加えて、積極的で、コミュニケーションに優れ、リーダーシップがとれる人間がほしいと言います。これらは脳の持つすべての能力が備わっていることを期待しているとも考えられます。

本学のカリキュラムの中に実践による「やらまいか教育」を取り入れた理由のひとつがここにあります。いわゆる授業だけでなく、体験やものづくりをグループで実践することにより脳力を鍛えようとする目的があります。創造・発見、創造工学入門、さらにはインターンシップやボランティア活動などのメニューがそろっています。この数年の間にこのやらまいか教育が徐々に充実してきました。ものづくりやコンテスト参加などがある創造発見には企業OBの方々の支援も得て200名を超える学生が参加しています。また創造・発見の活動のための新しい建物も検討されています。更に多くの学生諸君の参加と地域企業のご理解をお願いする次第です。

## 遠州灘

昨今、日本語の解説書が書店に並び、日本語を題材にしたテレビ番組も注目されている。母語だから知っているはずなのだが、あらためて気づかされる事柄も多い。

「それで、わしは決めたのじゃ」というのは「博士語」。理工科大学にも博士はたくさんいるが、こんな話し方をする人はいない。「あたくしは知らなくてよ」というお嬢様言葉を使う女性もいない。このような、特定の人物像と結びついた言葉使いを「役割語」といい、漫画や小説、翻訳には不可欠なものらしい。現実には存在しないし、会ったこともないのに奇妙に感じないのは、子供の時から摺り込まれているからだという。

美しい話し方、正しい敬語もいつの間にか身につけておきたいものである。(K)

# 初の中国語海外研修を杭州で実施



本学学生5名が9月4日から9月17日まで中国杭州市の浙江工業大学で中国語研修を受講しました。杭州は上海から車で約3時間の所にある浙江省の省都で人口600万人ほどの大都市です。浙江工業大学は1953年の創立で、理工系を中心に21の学部、47の学科があり全学生23,000人を擁しています。今回の研修は、同大学国際交流センターの特別な計らいにより、わずか5名の本学学生のために実現したものです。



機械工学科4年 柴田泰典

中国経済の実態を自分の目で見ることができました。色々なものに対しての規模の大きさ、街中でお金を求める孤児や老婆、中国人の人格など、様々なものが見れました。

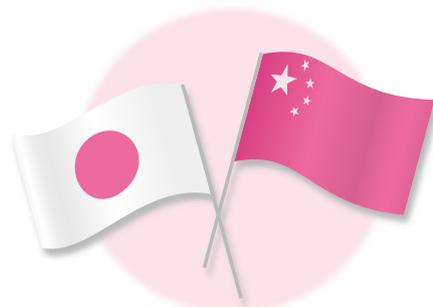
研修を通して一番感じたことは英語の大切さです。中国人で大学に通っている人のほとんどが日本人と比べ、英語力が高いと感じました。

学務課職員 藤本光一

研修の中心は、毎日90分間の初級レベルの中文を12回学習するものです。女性講師の王海育先生の厳しい中にも親しみやすいレッスンを参観しましたが、受講生が本学学生5名しかいないせいか、何度も指名され、発音を直されたりしてかなりハードな研修となりました。授業は英語を補足的に使いながら中国語ですすめられるので、学生もついて行くのが容易ではありません。この中文学習の他には、各種の中国文化に関する講座や鑑賞、見学、スポーツ体験や杭州周辺の遊覧が用意されていて一見リラックスできそうですが、そういった場でも必然的に習いたての中国語を使わざるを得ないようなケースが少なくありません。今回の研修は短期のものでしたが、本学学生は実に多くの異文化体験をし、また同世代の中国人学生と片言の中国語、英語に筆談も交えて歓談するなどして、2週間の「金の時」を過ごしました。

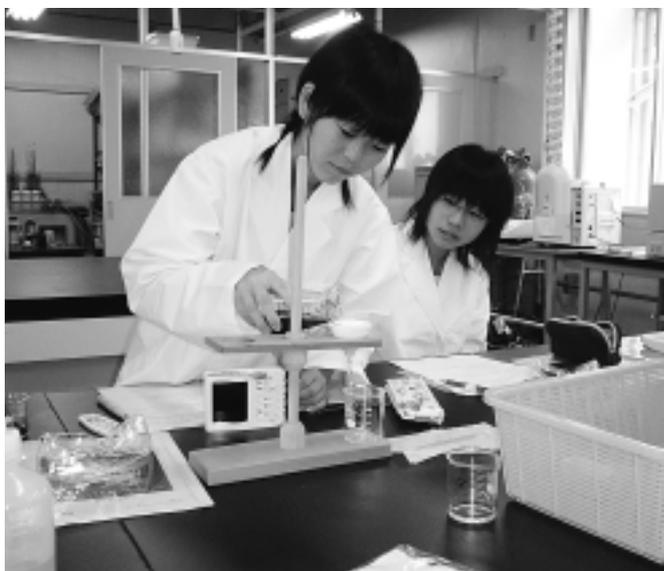
浙江工業大学講師 王海育

一衣帯水の国日本、それも浙江省と友好関係にある静岡県学生を受け入れることが出来て大変光栄です。彼らのほとんどが初めて中文学習をするということで毎日苦勞の連続であつたらうと推察しますが、2週間よく頑張りました。今回の経験が彼らの将来にいささかでも寄与するならば幸いです。



# サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)について

SPPは、文部科学省が主催している教育連携講座として開催されています。その趣旨は、大学と近隣の高等学校とが連携し、高校生が実験・成果発表を体験することで、理科大好き人間を養成するというものです。



吸着実験を体験している風景

担当教員 物質生命科学科 山崎 誠志

本年度は、本学物質生命科学科と掛川西高校および掛川東高校とが連携し、両校合わせて15名が参加しました。内容は、“環境に優しい新素材”という大きなテーマの中で“吸着現象を利用した環境汚染物質の除去”(山崎)と“生物が分解するプラスチック”(幡野)という2テーマの実験を体験しました。実験では、自分たちが合成した試料を電子顕微鏡など大学ならではの機器で調べたり、プラスチックが分解される様子を観察したりと充実した実験を体験してもらったと感じています。また、最終日の成果発表会では、堂々とした発表に驚かされるとともに“理科大好き”という意識が発表に表れていると感じられ、我々スタッフも喜ばしい気持ちを持つことができました。

大学院 理工学研究科 材料科学専攻 1年 磯部 晃範

## 「SPPに参加して」

私はSPPの中で「吸着現象を利用した汚染物質の除去」の指導をしました。最初は、こちらからの一方的な実験になってしまうかと思いました。しかし、予想以上に高校生たちが積極的に実験に取り組む姿勢を見て強いやる気を感じました。また、成果報告会においても、スライドも丁寧で、はっきりと発表していてとても驚きました。全体を通して、教えるということの難しさ、大変さ、を感じることで、自分自身にとってもとてもプラスになり、とても意味のある体験ができました。



電子顕微鏡での試料の観察風景

静岡県立掛川東高等学校 教諭 大石 光久



SPP、高校生が大学の先生の指導で実験を行うという今回のプログラムは、科学技術の最先端の物質を合成し、合成した物質の評価と性質確認という高校の授業ではほとんど

行われないことが体験でき、生徒にとっては良い経験になりました。また、人前で実験結果を発表することの難しさ、厳しい質問に答えるためには、内容の理解が大切であることがわかってくれたのではないかと思います。今回のプログラムを通して、科学への興味が深まってくれることを願います。

静岡県立掛川西高等学校 教諭 入谷 昭



今回のSPP事業は、高大連携という点で大変有意義でした。大学の先生が取り組まれているテーマに触れ、高校ではできないような実験ができ、生徒の知的好奇心を刺激するの

に大きな効果がありました。当初、心配された発表についても、生徒は驚くほどの熱心さでスライド作りに取り組み、拙いながらも堂々と発表ができたことは、サイエンティストとしての彼らの将来にきつとつながっていくことでしょう。これを機に、さらに高大連携が進むことを期待します。

静岡県立掛川東高等学校 3年 松井 俊憲

私は、このサイエンスパートナーシップを体験して、今まで実際に見たことのない電子顕微鏡などの機器にふれたり使用法を学び、使ったりしました。また、ゴミ問題や大気汚染などの環境問題の解決となる可能性のあるゼオライトや生分解性プラスチックを合成しました。近い将来、この物質が活躍することが楽しみです。

高校生のこの時期に、このような経験ができて本当に良かったと思います。

静岡県立掛川西高等学校 2年 榎林 聖子

理工科大での実験は、特に厳しい時間の制限もなく、わからないことがあっても、質問すると院生の方や先生が丁寧に教えてくれたので、とても楽しく、のびのびとできました。実験の後は、先生にも助けをもらいながら発表の準備をしました。実験をもう一度振り返ることで、深く理解でき、またこの作業が大事なんだろうなと思いました。大学の雰囲気や味わったり、実験の発表を通じて環境問題を感じたり、良い経験となりました。

## 理工科大好きシンポジウム 2005 サイエンス・パートナーシップ・ プログラム報告会に参加して



担当教員 物質生命科学科 幡野 明彦

去る 11 月 12 日、文部科学省からの依頼で、本学の SPP の取り組みを発表する機会を得ました。本年度は東京の国際交流会館で行われ、約 250 名の参加がありました。中学、高校、大学教員から、文部科学省の調査官の方まで参加した幅広い会となりました。

報告会ではポスター発表を行いました。最も多かった質問は実験の内容に関するものでした。細かいテクニックや現象のことなど、専門的な質問が多かったことに少々驚きを感じました。また、静岡県内の高校の先生数名ともお話しする機会があり、今後の高大連携に新しい道を見いだせるかもしれないと感じました。

## オープンキャンパス

7月23日(土)・8月7日(日)の2日間、本学にて「オープンキャンパス」を開催し、高校3年生を中心に合計557名が参加しました。運営スタッフとして、のべ250名の在学生も加わり、参加者にも好評でした。



## 市民体験入学

8月28日(日) 本学にて「市民体験入学」を開催し、243人が参加しました。集中講義には、医学博士でエッセイストの海原純子(うみはらじゅんこ)さんが「女のストレス 男のストレス ~元気になるための処方箋~」と題して講演を行いました。



## 中学生のための実験講座

8月9日(火) 袋井市内の中学生を対象とした実験教室「大学体験教室~おもしろいぞ電気~」を開催しました。参加した41名の生徒は、「雷のはなし」を聞いた後、太陽電池を使った回路を作り、電磁石を作って力比べをしたり、電気に関する色々な実験を見たり試したりして、電気を身近に体験する1日を過ごしました。



## 先どり！研究室体験

夏休み期間に「先どり！研究室体験」を開催し、期間中、のべ47名の高校生が15の体験コースに参加しました。研究実験を通じて大学の魅力・理工系の楽しさを感じていました。



## 公開講座

9月10日(土)、10月15日(土)に、本学にて「後期公開講座」を開催しました。1回目は、「生き物に学ぶマイクロロボットのメカニズム」をテーマに本学の見崎大悟助手と首都大学東京 館山武史助手が、2回目は、「微生物利用による環境の再生」をテーマに本学の惣田昱夫教授と株式会社荏原総合研究所 宮晶子氏が講演を行いました。



## クリーンアップキャンペーン隊

10月12日(水)の放課後、大学からJR愛野駅までの通学路で清掃作業を行いました。企画したのは大学に登録されている32のクラブ同好会で構成するクラブ連合委員会(委員長:情報システム学科3年内藤正浩さん)で、約40人の学生が参加して約1.5kmの通学路に落ちているペットボトルや吸殻などを拾い集めました。

また、11月9日(水)の放課後には第二回活動として学内の清掃活動を行いました。



## 大学祭

10月29日(土)、30日(日)の両日、第15回大学祭「SISTIVAL 05」(大学祭実行委員長:電気電子情報工学科3年生尾山敬祐さん)が開催されました。

今回のテーマは「和」。平和の和、協調の和、足し算の和、共和の和と様々な意味を含んだテーマでした。今回はメインゲストにフォークデュオの唄人羽(うたいびとはね)を迎え、市民も含めた多くの方々が来場し、大盛況のうちに終了することができました。



## 企業経営者による講演会

11月15日(火)3年生対象の就職ガイダンスとして、「企業経営者による講演会」を開催し、テイボー株式会社 代表取締役専務の青木靖博氏にご講演をいただきました。当日は3年生のほか、4年生、院生も聴講し、333名の参加がありました。

### 学長特別表彰

8月28日(日)に開催されたスーパーマイレージカーチャレンジ広島2005において、学生18名で構成する「静岡理科大学街道麓心遇チーム」が、ディーゼルの部で準優勝に輝きました。その努力と栄誉を称え、11月8日(火)に指導の機械工学科土屋高志講師をはじめ諸先生方列席の下、塩田学長より「学長特別表彰」が授与されました。

#### 受賞学生

大沼邦武(大学院 理工学研究科 2年)、植竹忠一・藤原直也・岩本和真(機械工学科 4年)、高橋 遼・吉野拓矢・三井 肇・山本 司・鈴木将也・鈴木宣行・小山 裕(機械工学科 3年)、渥美和己・浅井康弘・深田 徹・安達裕介(機械工学科 2年)、本多龍矢・松浦一敏(電気電子情報工学科 2年)、鈴木孝典(機械工学科 2年)

### 物質生命科学科桐原助教授、幡野助手、「ITE Research Award (2004年度最優秀賞)」、「学長特別表彰」を受賞

物質生命科学科の桐原正之助教授と幡野明彦助手は、今までITE(国際学会)が発刊する学会誌(年6回発刊)に十数編を投稿し、掲載されました。その成果(対象論文5編)を称え、2004年度の最優秀賞を受賞しました。

また、顕著な業績を上げたとして、9月20日(火)「学長特別表彰」が授与されました。



桐原助教授



幡野助手

### ふくろい遠州の花火片付ボランティア感謝状授与式

袋井市の夏の名物行事となった遠州の花火。翌日の早朝に地元自治会や小中学校の生徒等がボランティアで花火会場周辺のゴミを一斉に片付ける奉仕活動も地元では恒例行事となっています。本学の学生も花火会場が愛野公園に移った最初の年からこのボランティア活動に毎年参加しており、今年は硬式テニス部、Machine Creator's Factory、Shizuoka All-round Technologyの3団体合計23名が参加しました。このことに対して11月11日(金)に本学において袋井商工会議所の鈴木雪春部会長より「ふくろい遠州の花火クリーンアップ作戦」ボランティア参加感謝状と記念品の授与が行われました。



左より イ ギヨンさん、チョン ソヨンさん

## 韓国人留学生が袋井市民に韓国語の授業

大邱大学校からの交換留学生チョン ソヨンさん、イギヨンさんの両名が袋井市民に韓国語会話を教え、市民との草の根交流を行いました。これは日頃お世話になっている袋井市に何らかの貢献をしたいということから袋井市教育委員会が「お手軽チャー韓国語講座」として企画し、両名がボランティア講師を引き受け実現したものです。



＊惣田先生のプロフィール

生まれは中国チチハル、熊本県天草出身、のどかな田舎です。中学一年までいました。大学時代は隣の磐田で暮らしました。36年前の袋井はのんびりした田舎町でしたね（今でも！？）34年間神奈川県で公務員として過ごし、一昨年こちらに来ました。研究は微生物を使った環境浄化です。10年前静岡の茶畑から、世界で初めての「酸・アルミニウム耐性菌」を見つけました。今静岡の茶畑等から水素を作る菌や汚染となっている窒素を少なくする菌を探しています。

微生物(バイオ)の力で新エネルギー水素を生産  
 応用微生物・環境工学研究室 惣田 昱夫

研究室では、“小さい小さい微生物の大きい大きい力”を借りて、今注目されている燃料電池に使われる無公害の水素をバイオの力で“ごみ”から生産する研究を行っています。また環境で問題となったダイオキシン等有害化学物質を分解させ環境を改善する研究もおこなっています。静岡のお茶畑から世界で初めて分離された「酸・アルミ耐性菌(NHKモーニングニュースで2回取り上げられた)」で酸性土壌を改良する研究等、微生物で環境汚染防止に役立てようと研究をしています。バイオで地球環境が、人間の生活が守られるなら、素晴らしいことですね！  
 みなさん！微生物ワールドの研究室を覗いてみませんか！きっと素晴らしい出会いがありますよ！

研究室学生からひとこと

高橋彩子、杉森健二、今井絵里奈、安間祐人、八木優子、小長谷あゆみ

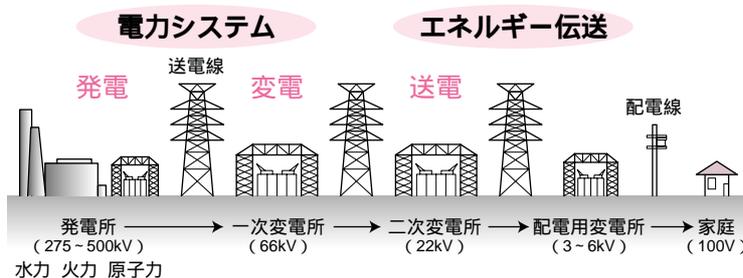
私達の研究室のスローガンは「和気藹々」です。  
 なんと！ピフィズ菌のおかげでヨーグルトには不自由しません。でも、納豆菌はいないので大豆はありますが納豆は作れません。ちなみに麹菌もいないです。  
 そんな感じで、研究するときも、遊ぶときも何事にも一生懸命になれる研究室ですよ！

授業科目の紹介

電気電子情報工学科 教授 恩田 一

3年後期に開講される電子制御・エネルギーコースのエネルギー分野で中心的な科目です。ライフラインの最重要項目である電気エネルギーの発生から一般家庭での消費までのうち、“発電・変電”が本科目の内容です。それ以降の“送電・配電”は4年前期に「エネルギー伝送」として学ぶこととなります。発電部分では火力発電を始めとして種々の発電所の仕組みや特徴を学びます。さらに近年注目されている自然エネルギーを中心とした新エネルギー発電についても勉強します。変電部分では変電所の役割と構成、各種設備機器の機能・特性について学びます。

本学は昨年10月中旬に経済産業省の審査を受け、来年度より電気主任技術者資格の認定校になります。認定校に指定されると、在学中に必要な科目を履修して卒業すれば、一定の実務経験を積むことにより筆記試験免除で第1



種（最高位）の電気主任技術者の資格を得ることが可能となります（ただし対象は来年度入学生から）。「電力システム」は前述の「エネルギー伝送」と共に電験認定コースの必須科目ですので、将来電気エネルギー関連業務に携わりたい方は是非履修しておくべき科目です。

## 地域企業の理工科大の 学生さんへの期待



ASTI (株) 技術本部  
技術開発部 次長  
寺田昌志さん

遠州地域では、二輪車、四輪車の輸送機器産業に牽引され、全国的にみても好調な地域で、中堅、中小企業も多くの技術者を必要としています。一方、学生の理工系離れが言われて久しいのですが、県西部地方には静岡理工科大、静大工学部と二つの理工系大学があり、技術開発に携わるものとしては、頼もしい限りです。

近年、企業を取り巻く環境は、グローバル化が一段と進み競争が激しくなっています。競争に勝ち抜いていくためには、今まで以上に技術開発のスピードが重要となっています。中堅・中小企業にとって、自社のみで技術開発のスピードを維持していくのは困難な時代になっており、大学や他社との連携を積極的に進めていくことが重要となっています。連携を成功に導く技術者には自社や自分の持っている技術やアイデアを判り易く伝える表現力と、他者の技術を速やかに理解する理解力が求められます。

理工科大の皆さんが、学生生活を通して、そうした表現力や理解力を身につけると共に、新しいアイデアを創生していく感性を磨き、地域発展の牽引役として活躍されることを期待しています。

# Citizens VOICE

## 市民の声

市民のみなさんから理工科大へのメッセージを紹介します。

### 大学教育に期待すること



袋井市在住  
兼子千津子さん

私と静岡理工科大学との関わりは、貴校の公開講座に一市民として参加していることです。市民対象の公開講座は実に多彩で、好奇心をかき立てるものや発見の喜びがあります。現代は生涯学習の時代です。私もこれからの人生は、未知なる世界の学びに挑戦してみたいと思っています。その夢を叶えてくれる学問が、理工科大にはたくさんあります。例えば、公開講座や市民体験入学、シンポジウム等で、視野を広げられたらと楽しみにしています。そして、地域に開かれた大学として、地域産業界のリーダーとなる人材の育成は勿論、地域の生涯学習の要となって欲しいと思います。袋井市は健康や福祉の町づくりを掲げていますが、それに加えて、学びの町づくりとして小中学生からシニアカレッジまで、みんなが様々な学びができると素晴らしいと思います。その「学びの勤め」の発信地として、理工科大に大きな期待を寄せています。

### 「出会い」を大切に



袋井市在住  
遠藤三佐代さん

私が中学校に在職中、学生のみなさんに理科実験講座や情報ボランティア等、交流活動でたいへんお世話になりました。身近な大学として親しみをもち、この袋井市に、地域に開かれた特色ある大学があることを誇りに感じています。

在職中に会った生徒・教職員は約8,500人。これまでの多くの人との出会いを通して、様々なことを感じ、感動したことが私の心の財産となり、今の自分があるのだと深く感謝しています。「人との出会いは、自分を成長させてくれる心の財産」だと思っています。

学生のみなさん、先生方や友達との出会いはもちろん、これから先の様々な人達との出会いを大切に、多くのことを学び、豊かな心をもち、自分を磨き高めてください。みなさんのご活躍を心から応援しています。

## サークル紹介

MCF

部長 松井 龍一



Machine Creator's Factory 略して『MCF』は、現在はコンテスト参加用の小型ロボットの製作を中心に活動をしています。最近参加したコンテストとしては、二足歩行ロボットで格闘を行う『ROBO - ONE』や、白線上を自律走行させる『マイコンカーラー』、『相撲ロボット』などがあります。『NHKロボコン』にも毎年応募しており、平成15年には決勝トーナメント出場という快挙を成し遂げました。コンテスト以外にも地元主催のイベントや大学祭に製作したロボットの展示や操作体験などで参加しています。自分たちで何でも作るをモットーに機械加工から回路製作、プログラミングまで幅広く活動する、元気なサークルです。



名古屋大学環境医学研究所  
生体情報計測・解析(スズケン)寄付研究部門

## 活躍する卒業生

武藤貴雄さん

知能情報学科第8期卒業生

最近、さまざまな薬剤において、心筋の再分極異常が引き起こされ、致死性の不整脈を誘発され心臓突然死に至ることが社会的問題となっています。そこで、薬剤安全使用のため、ICH（日米EU医薬品規制調和国際会議）より、新薬開発のための臨床試験のガイドライン（案）が提案されました。このガイドラインに対応したシステムの構築が急務とする考えから、(株)スズケンによって名古屋大学環境医学研究所に生体情報計測・解析（スズケン）寄付研究部門が開設され、私はその助手として働いております。その他に、病態心のイオンチャネルリモデリングの機序の解明として、アルドステロン、Nkx2.5 遺伝子といった現在、循環器学のkeywordとなっている因子とイオンチャネルの関係を研究しています。

大学時に、このような研究を仕事とすると、夢にも思わなかったです。しかし、今は運動が好きで選んだ運動生理学研究室での富田先生やその仲間との出会いがあったからだと確信しています。なぜならば、この時、探求することの難しさ以上に面白さを知ることができたからです。そして、今の自分のパワーの源となっています。

## スポットライト

がんばれ！  
理工科大生



電気電子情報工学科4年 岡田和浩

空手との出会いは、小学校6年生の時でした。小・中学校時代は野球をやりながら空手を続け、本格的にやるようになったのは高校時代からです。

週3回、掛川の道場で3時間ほどの練習を行い、時には浜松や静岡の道場へ出向いて練習をしています。空手は、基本的に組手と形があり、形を主として、日々厳しい練習に耐えています。大会では、力強さ・美しさ・スピード等の空手の基礎を重視されるので、鏡の前で練習したり、ビデオ撮影して自分の形を研究しながら取り組んできました。日々の練習が同じことの繰り返しで、空手を続けることが嫌になったことはあります。しかし、家族や仲間を支えられ、何より空手が好きだから今まで続けることができました。そして、勉強との両立が上手くできたことも静岡県西部大会優勝、県大会3位、東海大会4位という成績に繋がったと思います。

道場では小学生から年配の方まで練習しているので様々な人と接する機会が多く、コミュニケーションの回り方を学びました。空手を通して、精神面の鍛錬、練習を継続し努力することの大切さ等も学ぶことができたと思います。

大学卒業後は浜松に就職します。仕事をしながら、浜松の道場に通い、国体出場を目標にこれからも空手を続けていきたいと思っています。そして、自分の競技だけでなく、子供達の指導にも力を注ぎたいと考えています。

在学生のみなさん、何か一つ一生懸命取り組めるもの・夢中になれるものを見つけてください。そして、それを続けることが何よりも大事です。

## 父母懇談会

後援会  
だより

大学祭に合わせて実施している「父母懇談会」が、大学祭初日10月29日（土）に本学で開催され、約270名の方々にご参加頂きました。

全体会では、鈴木康久後援会長並びに本学学長からの挨拶に続き、父母懇談会では初めての試みとして保護者対象の就職講演会を開催しました。講師にパーソナルアシストコミュニケーション代表稲葉都男先生をお招きしての「ファミリーサポーターが就職活動を成功させる」と題した講演で、企業の採用担当者として経験も踏まえての話術巧みなお話しは保護者の方々からも好評でした。

その後行われた学科別懇談会では、学科長などから学生



の様子や学科の教育内容・就職状況などの説明が行われました。午後からは助言教員との個別面談が各教員の研究室で行われ、約90名の方々が面談されました。

同窓会  
だより

## ホームカミングデーの開催

大学祭2日目10月30日（日）に「第5回ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、卒業生やご家族、教職員など約210名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は5周年の節目を迎え、恒例の大抽選会とあわせおおいに盛り上がり親交を深め合うホームカミングデーとなりました。また、年々かわいいお子様連れやカップルで参加する卒業生が目立つようになりました。

また、今回ご多忙の中にも拘わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様にもお礼申し上げます。



## 編集後記

今回は特集記事として「語学研修」と「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）」について取り上げました。語学研修では昨年初めて中国での研修を行い、5名の学生が参加しました。また文部科学省主催のSPPでは、掛川西高校・掛川東高校と連携し、15名の高校生に理科実験の楽しさを体験してもらいました。今後も地元の皆さんとの連携を深めつつ、世界に目を向けることの出来る学生を育てていきたいと思ひます。（T）

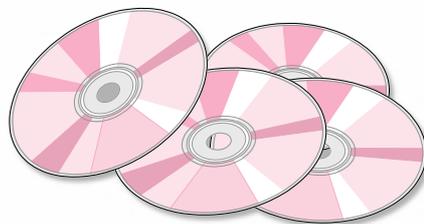
施設編  
SIST Topics

## 最新のライブラリースystemにリニューアル

図書館視聴覚室に新しくDVD-Videoライブラリースystemが導入され、6月1日のオープニングセレモニーに引き続き運用を開始しました。旧VTRシステムの老朽化とマルチメディア資料への対応ということでリニューアルしました。

新システムはオートチェンジャー方式により、端末からアクセスすることで所蔵資料を自動的に視聴することができます。字幕、言語のメニュー選択やスキップ、スロー、停止などのインタラクティブ機能を備え、高音質・高画質で多様なニーズに応えることができます。

導入から日も浅く資料ソフトの整備には時間を要しますが、現在、「生命と科学」や「オルセー美術館」などの学術教育資料、「ハムレット」や「華氏911」などの教養娯楽資料を約300タイトルほど提供し、学生アメニティ環境の充実に寄与するとともに豊かな人間性の涵養に資するものと期待しています。



静岡理工科大学キャンパスニュース  
平成18年1月31日発行  
企画・編集・発行 / 静岡理工科大学広報推進部会  
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2  
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110  
<http://www.sist.ac.jp>